

い抜き言葉

副専攻卒業論文（言語学）

担当者：小屋逸樹先生

所属：慶應義塾大学法学部政治学科 4 年 G 組

氏名：宮本良文

学籍番号：31062255

副専攻（言語学）
小屋逸樹研究会

法学部政治学科四年
宮本良文

「い抜き言葉」

文責：宮本良文（法学部政治学科四年）

はじめに

- I 「い抜き言葉」とは
- II 「い抜き言葉」の分類
 - 1.テ形補助動詞型とは
 - 2.形容詞語幹型とは
- III 「い抜き言葉」の用法
 - 1.テ形補助動詞型の用法
 - 2.形容詞語幹型の用法

結論

はじめに

松屋という牛丼チェーン店が、「無添加へのこだわり」と題して作ったチラシがある。チラシは、「カウンターに並んでゆるドレスシング（以下略）」の文言で始まる。

日本語の乱れとして、～抜き言葉という現象がある。有名な「ら抜き言葉」については、数々の考察がなされてきた。最近になって「ら抜き言葉」とほぼ同等に、人によってはより多く使われるものに「い抜き言葉」というものがある。上記の牛丼屋のチラシで言うと、本来「並んでいる」とするところを「並んでゆる」と表記している。

従来から「定期」のことを「てーき」、「提出」のことを「てーしゅつ」と発音するケースはあった。長音記号「ー」が残るケースは確かに存在したが、今回の論文で扱う「い抜き言葉」は、そこよりも一歩進んだ変化を扱う。本論で扱うのは「並んでーる」ではなく完全に「い」が抜け落ちる「並んでゆる」なのである。

本論文の目的は、そうした「い抜き言葉」の実態を把握し、「い抜き言葉」が使われるケースを考察することである。なお、本論では本来「い」が入る場所に「ゆる」を挿入して「い抜き」を表すこととする。文前の「*」は文が不自然で成立しないことを表す。文前の「？」はケースバイケースで成立することを表す。

- I 「い抜き言葉」とは

(1) 野球をしている。

(2) 野球してゆる。

例文(1)は文法的に正しい文章である。一方で、同じ意味で例文(2)を口語において使う人もいる。例文(2)は例文(1)から「い」が抜け落ちている。このように「い」が抜け落ちて、文法的に正しくないが、意味が伝わる言葉を「い抜き言葉」とする。

例文を他にも挙げる。

犬が走ってゆる。

靴を履いてゆる。

ドアは閉まってゆるた。

ドアは開いてゆるない。

会社を経営してゆるく。

このラーメン、うまっゆる

今年のタイガース、つよっゆる

子供たちうるさっゆる

マシュマロやわらかっゆる

この絵はきれーゆる

あの問題はむずかしーゆる

『グッチ裕三の早ゆるうまゆるレシピ』

上記のように、文法的に正しい文のゆるの部分から「い」が抜け落ちても、意味が伝わる言語表現が、「い抜き言葉」である。

II 「い抜き言葉」が使われるケース

(1) 犬が走ってゆる。

(2) (冬に外に出て) 寒っゆる。

「い抜き言葉」の使用ケースはいくつか分類できるが、本論では(1)に代表されるテ形補助動詞型と(2)に代表される形容詞語幹型の二種類に分類したい。

1. テ形補助動詞型とは

本節に入る前にテ形補助動詞について確認したい。まず補助動詞とは「動詞のうち、実質的意味を失い、前の語句に添えて補助的な意味を付け加えるもの。」¹⁾である。「～している」「～してしまう」「～してみる」「～してあげる」などのことだ。補助動詞については非

¹⁾ 林巨樹・池上秋彦編(2004)『日本語文法がわかる事典』東京堂出版,p.272.

常に細かい分類や構文の専攻研究がある²。本論で特に着目したいのは、補助動詞が実質的意味を失っている点である。例文を挙げる

- (3) 太郎は、公園で遊んでいる
- (4) 太郎は、公園にいる。彼は遊んでいる。

(3) と (4) の例文は異なるニュアンスである。どちらも太郎が「遊んでいる」ことを表しているが、(3) の例文では「太郎が公園にいる」というニュアンスがほとんどない。むしろ「公園で」は「遊んで」にかかる修飾語となっている。このように本来の意味を失ってしまった動詞を補助動詞と呼ぶ。

次にテ形について説明したい。「テ形」は **te-form** や「て」の形など様々な呼び方があるが、本論では「テ形」に統一する。「テ形」とは、以下の例文のような「て」のことである。

太郎は走って、駅に向かった。

上記のような活用形の一つとしての「テ形」の説明も既に十分議論がなされている³。まず、そもそもテ形の接続について確認したい。

- (5) 彼は走って、家に帰った。

テの前にある用言が実質的動作を表し、後ろが文法概念を表す。例文 (5) では「走る」というのが彼の実質的な動作であり、文法的に「帰った」というのが文全体の用言となっている。またテ形には並立・先後という二つのタイプがある。

- (6) 彼は歩いて、彼女は車に乗った。
- (7) 彼は怒って、花瓶を倒した。

例文 (6) が並立タイプで、例文 (7) が先後タイプである。前述の (5) も先後タイプであり、「～してくる」と言ったテ形補助動詞も先後タイプである。

さらにテ形には述語形成機能がある。

² 田中章夫(2001)『近代日本語の文法と表現』明治書院,pp.282-293 及び日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 2』くろしお書房,参照。

³ 吉永尚(2012)「テ形節の意味と統語」三原健一・仁田義雄編『活用論の最前線』くろしお出版,及び坪井美樹(2007)『日本語活用体系の変遷』笠間書院,pp.227~243 参照。

- (8) 分かっている／分かってくる／分かってしまう
- (9) 書いてやる／書いてもらう
- (10) 気がしてならない／気になってしかたがない

これらのテ形は様々な述語成分に前節して、文末表現を形成する。テ形補助動詞はこの機能の最たる例である。

テ形の議論のうち本論で重要な点は三点ある。第一に、テ形には「まとまりをつくって次につなげる」働きがある。第二に、先後型のテ形は「テ」の前にある用言が実質的意味である。第三に、補助動詞に見られるテ形は先後型であり、述語形成機能があるということだ。

以上概観したことを踏まえると、テ形補助動詞としては「～している」と「～していく」があげられる。上記のテ形補助動詞については詳細な先行研究がなされている⁴。特に、吉田紗子氏は、テには動作の完了と開始のアスペクトがあることを明らかにし、「～している」は、事態の存続・結果存続を表し「～していく」は、事態の話者からの乖離を表すと指摘している⁵。

以上を踏まえて、テ形補助動詞型「い抜き言葉」の考察に入りたい。

- (11) 太郎は公園に行っている。
- (12) 太郎は公園に行ってφる。
- (13) 駅にいる。
- (14) *駅にφる。

(11) と (12) のようにテ形補助動詞構文では「い抜き」が可能である。一方、同じ「いる」でも補助動詞でない本動詞の「いる」では、(13) と (14) のように「い抜き」は発生しない。

(15)

いっていない。/いってφない。/*φっていない。/*いっていなφ。

またテ形補助動詞であっても「い抜き」が可能な「い」は補助動詞部分だと決まっている。(15) からそれは明らかである。

本節をまとめるとテ形補助動詞は「～してφる(く)」という「い抜き言葉」が可能である。

2.形容詞語幹型

⁴ 日本語記述文法研究会編(2007)『現代日本語文法 3』くろしお出版,pp.42-45 及び吉田紗子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋社,参照。

⁵ 吉田紗子『日本語動詞テ形のアスペクト』pp.130-131,p233,参照。

- (16) 強い
- (17) つよ（っ）φ
- (18) かわいい子
- (19) かわいーφ子

上記の例文は補助動詞ではないが、い抜き言葉が可能である。形容詞の語幹の「い」が抜け落ちるケースだ。「い」が抜け落ちた後にテ形補助動詞では「φ」の部分に何も残らない。しかし、形容詞では人によっては「っ」や「ー」が残る場合がある。「はじめに」で述べた通り長音記号「ー」を残すい抜き言葉は今回の考察外である。

一方、「っ」と発音できそうなものを本論では、「い抜き言葉」とみなしたい。語幹用法を文字化する際、末尾に小書きの「つ」を添えることがあるが、促音は前後の音節に挟まれていなければ発音できないので、実際には促音ではない。以降、形容詞型い抜き言葉で「φ」を使う場合、断りがなければ「っ」挿入できそうなタイプも含むとする。

形容詞の語幹が抜け落ちる「い抜き言葉」は他にもある。

- (20) あざとφかわいい
- (21) 小さφかわいい
- (22) 『グッチ裕三の早φうまφレシピ』

(20) と (21) はネットスラングである。特に (20) は、ニコニコ動画⁶という人気動画サイトで頻繁に使用され、キーワード集に意味や使用例が掲載されている⁷。(22) は実際に出版されている料理本のタイトルである。⁸

更に文化庁発表の平成 22 年度「国語に関する世論調査」⁹では形容詞語幹型の「い抜き言葉」についてのアンケートがなされている。以下アンケート結果をまとめる。

(冬、暖房の効いた建物から、気温の低い外に出たとき)「寒っ。」は 84.0%、(びっくりするようなものを見聞きしたときに)「すごっ。」は 76.7%、(電気コードなどの長さが足らなかったとき)「短っ。」は 73.4% (式典の挨拶がなかなか終わらないとき)「長っ。」と(車の騒音がひっきりなしに続く道を歩いているとき)「うるさっ。」は 66.1%の人が「気にな

⁶ ニコニコ動画とはドワンゴ子会社のニワンゴが運営する niconico の動画共有サービスの一種である。利用者数は 200 万人を超えている。

(ニコニコ動画 URL: <http://www.nicovideo.jp/>)

⁷ あざとかawaiiとは・ニコニコ大百科・ニコニコ動画 (<http://dic.nicovideo.jp/id/4795474>)

⁸ グッチ裕三(2003)『グッチ裕三の早うまレシピ』日本放送協会

⁹文化庁(2011)『平成 22 年度 国語に関する世論調査 現代の国語をめぐる諸問題』ぎょうせい,参照。

らない」と回答している。つまり形容詞語幹の「い抜き言葉」は相当程度世間で受容されていると言える。

Ⅲ 「い抜き言葉」の用法

本章では、どのようなケースでは「い抜き」が可能で、どういったケースでは逆に不可能なのかを考察する。特に「い抜き」が制限される場合に着目し、本来文法的逸脱にも関わらず一定の縛り・ルールがあることを明らかにしたい。なお、前章の分類を踏まえて、本章においてもテ形補助動詞型と形容詞語幹型に分けて考察を進める。

1. テ形補助動詞型の用法

そもそもなぜテ形の補助動詞では「い抜き言葉」が発生するのか。その理由は音にあると考えられる。「e」＋「i」の音、では「i」の音が消えるか「e:」と長音化しやすいという現象がある。こうした音声・音韻の議論については、方言研究を始め先行研究の蓄積がある。¹⁰

「走っておる」が「走っとる」になるのと同じメカニズムで、「定期券」は「ていきけん」と発音が変化することがある。同様の理由で「勉強している」が「勉強してゆる」になるのが「い抜き」の理由であると考えられる。

上記のように、「て」の後には「i」の音が抜け落ち易いという発音上の傾向がある。しかし、この現象はより複雑であり、これだけでは「い抜き言葉」の説明としては不十分である。「ていき」が「ていき」になったように、「い」が抜け落ちる代わりに本来であれば「e:」の音が残るのが自然である。しかし、テ形補助動詞型「い抜き言葉」では、φの部分から「い」が跡形もなく消えてその痕跡を残していない。

これはテ形補助動詞のメカニズムが働いているからだと考えられる。つまり、テ形補助動詞において省略される「い」は本来の意味を失った形式的な存在であり、痕跡なく省略しても表現上問題とはならない。一方で、「定期」や「提出」は、自立語の一部として形態素を構成している。「ていき」を「ていき」に、「ていしゅつ」を「てしゅつ」にすることは文法制約上難しい。そうした理由から、テ形補助動詞のみ「e:」を残さない完全な「い抜き」が可能になると言える。また「ei」から「e:」への変化は、未だ規範意識が強く「ou」から「o:」の変化に比べて文語表現・書き言葉では受容されていないという指摘がある¹¹。以上の理由から、「ei」から「e:」への変化に対する受容度が完全では無い以上、更なる省

¹⁰高山知明(2003)「現代日本語の音韻とその機能」上野善道編『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』朝倉書店,p34 及び福島直恭(2002)『<あぶない ai>が<あぶねえ e : >にかわる時：日本語の変化と過程と定着』笠間書院,参照。

¹¹高山知明「現代日本語の音韻とその機能」p34

略である「い」が脱落する現象は、実質的意味がなくなったテ形補助動詞でしか許されないと考えられる。

「て一き」との違いについては、もう一点問題をはらんでいる。

- (1) 「休日は野球して ϕ る」
- (2) * 「休日は野球して一 ϕ る？」

「する」という動作の継続である「している」が元の表現であるが、学生同士の会話ではむしろ例文 (1) の方が自然である。さらに、「い」を抜いて「一」を入れるのは、非常に不自然である。先ほどとは逆に、「一」を絶対に入れることはできず「い」を完全に抜かなければいけない。

これはアクセントの問題であると考えられる。というのも、そもそも「ei」が「e:」に変化するの、「e」にアクセントがある時のみである。テ形補助動詞の「て」にはアクセントが無いので、「V+ている」が「て一る」になることは発音の関係上ありえない。

この「一」が使えない、さらに言えば「て」にアクセントがつかないというのが、テ形補助動詞型「い抜き言葉」の制約であると言える。「～して ϕ る」「～して ϕ く」は、「～している」「～していく」のテ形補助動詞型「い抜き言葉」であると言える。「～して ϕ る」「～して ϕ く」が他のタイプの補助動詞の省略形となることはない。

「テイル」型と「テアル」型については種々の議論があるが、ここでは「テ ϕ ル」が「テイル」の「い抜き」であり、「テアル」の省略形ではないことを証明したい。

- (3) 資料が準備してある。
- (4) * 資料が準備している。
- (5) * 資料が準備して ϕ る。
- (6) 資料を準備してある。
- (7) 資料を準備している。
- (8) 資料を準備して ϕ る。

(3) ～ (5) からテアル型からアを抜くことができないことが分かる。それゆえ (6) ～ (9) のような例文があったとしても、(8) = (7) であり、(8) \neq (6) であると言える。

テイル型とテアル型の比較からも分かった通り、テ形補助動詞型い抜き言葉の制約は「一」の禁止のみで制約が弱く「テ ϕ ル」と「テ ϕ イク」は「あ抜き」ではなく「い抜き言葉」である。

2.形容詞語幹型の用法

(9) 「このラーメンうまφ！」

例文(9)のように形容詞の最後の「い」を抜かす「い抜き言葉」を本節では扱う。

毎週土曜日夕方六時半から日本テレビ系列で「満天☆青空レストラン」というグルメ番組が放送されている。ロケ地を回ってご当地グルメを食べ歩くという内容で、お笑い芸人の宮川大輔がレギュラーとして出演している。そして毎回料理を食べるごとに決まったように「うまああ！」と叫ぶ。もし仮に宮川が「美味しい」という言葉を叫んだらどうなるだろうか。おそらく「いいい！」と叫ばれても「美味しい」という意味は伝わらないだろう。なぜなら、「い」はどの形容詞にもついており、そこを強調しても何を言っているのか聞き手に上手く伝わらないからだ。

以上のように、本節のようなタイプのい抜き言葉は形容詞終止形末尾の「い」を抜き、語幹のみにすることで成立している。こうした形容詞の語幹用法に関しては古典文法にも見られる現象であり真新しいものでは無い¹²。一方で、現代の大学生のような若者言葉に着目した専攻研究も存在する。¹³本論で扱う現代口語表現における形容詞語幹用法の制約についても富樫純一の重要な指摘があった。¹⁴以下、富樫の議論を参考に、形容詞語幹型「い抜き言葉」の用法について考察を進めたい。

(10) *よφ←よい

(11) *なφ←ない

(12) ?遠いφ←遠いい

(13) うまφ

(14) くるしφ

(16) うるさφ

(17) ?たのしφ

(18) ?めずらしφ

(19) *あたらしφ

富樫は、語幹が一拍(10・11)と語尾が<ooi>なものは用法が制限されると指摘しているが、<ooi>タイプは耳にすることがあり、使用可能だと言える。語幹が二拍のもの(13)

¹²飯豊毅一(1973)「形容詞・形容動詞の語幹・各活用形の用法」鈴木一彦・林巨樹(編)『品詞別日本文法講座 4 形容詞・形容動詞』くろしお出版,pp. 163-206.

¹³原田幸一(2013)「大学生の日常会話における形容詞の語幹終止用法」『言語社会』第七号.

¹⁴富樫純一(2006)「形容詞語幹単独用法について—その制約と心的手続き—」日本語学会2006年度春季大会(<http://www.ic.daito.ac.jp/~jtogashi/t06c.htm>) 参照.

が語幹用法の中心と言う見方は正しいと言える。更に三拍以上（14～19）の使用制限はケースバイケースであると述べている。

次に、意味に着目して形容詞を属性・感覚・感情の三つに分けたとき、属性・感覚形容詞は原則として語幹活用が可能であり、感情形容詞は原則不可能としているが、この分類は例外が多く存在する。

(20) (冬に蚊が飛んでいて) めずらしφ

(21) (母校を訪れて) なつかしφ

(22) *あたらしφ

(20・21) は感情形容詞であるが、目の前の事象によって引き起こされた感情だから語幹用法が可能であると説明している。また、(22) は属性形容詞であるが「シク活用」は例外的に語幹活用ができないとして例外扱いしている。

形容詞の意味に着目した点はよいが、この分類方は例外が多く複雑なように思える。本論では形式・意味に着目した新しい分類を考える。

まず形式についてだ。この点では富樫の議論をほぼそのまま引き継ぐ。すなわち、語幹が一拍は不可能であり、二拍がもっとも語幹用法が起りやすく、三拍以上はケースバイケースだ。しかし、ここでもう一つの特徴を付け加えたい。それは、ク活用は、三拍以上でも原則語幹活用が可能である点だ。これについて説明する。

以下にあげたのは語幹の最後の母音に着目した形容詞の型の数である¹⁵。

ai型 104 ii型 3 ui型 40 ei型 0 oi型 56 sii型 108<シク活用>

上記のようにシク活用がもっとも多く、ei型は現代形容詞には存在しない。さらにこの型類型を元に非標準用法について考える。形容詞には標準用法以外に以下のような非標準用法というものがある。

ai型：あぶない⇔あぶねえ

ii型：かわいい⇔かわいい/かわええ

ui型：わるい⇔わりい

oi型：ひどい⇔ひでえ

非標準用法に着目するとク活用の形容詞は全て「e:」「i:」に変化する。こうした非標準用法をとるク活用形容詞は三拍以上でも語幹用法を使える。

(23) ちいさφ (属性)

¹⁵福島直恭(2002)『〈あぶない ai〉が〈あぶねえ e〉にかわる時』p110、参照。

- (16 再掲) うるさφ (感情)
- (24) あたたかφ
- (25) きもちわるφ
- (26) わかりやすφ
- (27) どうでもよφ
- (28) もったいなφ

以上のような三拍の (16・23)、四拍の (25)、六拍の (26～28) は耳にすることが多い。前述のサンプルに使われた 203 個のク活用形容詞は全て語幹用法が可能であった。

次に意味に着目する。問題は三拍以上のシク活用形容詞である。三拍以上のシク活用は、外界の影響を受けた感覚・感情の形容詞において語幹の「い抜き」が可能となる。

本節の形容詞語幹型「い抜きことば」の制約をまとめる。①語幹一拍は不可②ク活用は語幹三拍以上でも可③語幹三拍以上のシク活用は、外界の影響を受けた感覚・感情の形容詞のみ可。以上のような制約が働いていると推察される。

結論

最後に二つに分類していたテ形補助動詞と形容詞語幹型の共通性を指摘したい。両者に共通するのはどちらも完全に「い」が抜け落ちてしまっている点だ。繰り返しになるが「ei」が「e:」になることはあっても完全に抜け落ちて消えてしまうのは「ら抜きことば」の「ら」以外では「い」位である。「い」が脱落するプロセスは、異なっていることが分かったが、「い」に意味が無く形態素となっていない点は、両者の共通点であると結論づけられる。こうした共通原因と共通結果に着目し、プロセスも制約も非常に異なる両者を「い抜き言葉」という同じカテゴリーに入れることは可能だと考えられる。テ形補助動詞と形容詞語幹用法それぞれの研究は確かにあった。しかし「い抜き言葉」という枠組みで両者を融合させた冒険的視点は無かった。こうした視点を提供したことが本論のもっとも強調したい主張である。

本論文は「い抜き言葉」の使用法に着目したが、その表現効果の考察を行わなかった。また、「い抜き言葉」それ自体にスポットを当てたため、「ら抜きことば」と比べてなぜ「い抜き言葉」が問題とされないのかという社会言語学的問いに答えを出すことはできなかった。今後の課題としたい。

<参考文献>

- 上野善道編(2003)『朝倉日本語講座 3 音声・音韻』朝倉書店
鈴木一彦・林巨樹編(1973)『品詞別日本文法講座 4 形容詞・形容動詞』くろしお出版
田中章夫(2001)『近代日本語の文法と表現』明治書院
坪井美樹(2007)『日本語活用体系の変遷』笠間書院
富樫純一(2006)「形容詞語幹単独用法について—その制約と心的手続き—」日本語学会
2006 年度春季大会(<http://www.ic.daito.ac.jp/~jtogashi/t06c.htm>)
日本語記述文法研究会編(2007)『現代日本語文法 3』くろしお出版
日本語記述文法研究会編(2009)『現代日本語文法 2』くろしお書房
林巨樹・池上秋彦編 (2004)『日本語文法がわかる事典』東京堂出版
原田幸一(2013)「大学生の日常会話における形容詞の語幹終止用法」『言語社会』第七号
福島直恭(2002)『<あぶない ai>が<あぶねえ e : >にかわる時：日本語の変化と過程と定着』笠間書院
文化庁(2011)『平成 22 年度 国語に関する世論調査 現代の国語をめぐる諸問題』ぎょうせい
三原健一・仁田義雄編(2012)『活用論の最前線』くろしお出版
吉田紗子(2012)『日本語動詞テ形のアスペクト』晃洋社

<用例出典>

- ニコニコ動画 URL: <http://www.nicovideo.jp/>
あざとかわいいとは - ニコニコ大百科 - ニコニコ動画
(<http://dic.nicovideo.jp/id/4795474>)
グッチ裕三(2003)『グッチ裕三の早うまレシピ』日本放送協会